

九州工業大学

○ 産学官連携体制図

平成年22月4日1日現在

大学等名 : 国立大学法人九州工業大学

◇産学連携推進センターの概要

2006年10月、更なる社会ニーズへの対応、大学の機能強化を目的に、地域共同研究センターと知的財産部門を統合し、知的財産、リエゾン、教育支援、ベンチャー支援の4部門で産学連携推進センターを発足。
 ・2010年4月に国際的な産学連携の推進体制を強化するために国際部門を設置。

◇センターの特徴

- ・産学官連携活動を戦略的に実施し、技術移転による事業化の推進、地域経済への貢献、ソフトウェア著作権理念の確立を目指し、地域と我が国の産業のイノベーションに貢献するワンストップサービスの組織。
- ・ニーズ指向の研究開発であるモードII型の産学連携を推進。

学長 (松永守央)

副学長(研究・産学連携担当) (鹿毛浩之)

産学連携推進センター長(兼任・鹿毛浩之)

産学連携推進センター		
部門	業務	人員
知的財産部門	<ul style="list-style-type: none"> ●整備済基盤業務 ●地域産学官連携ボード対応 ●モードII型研究プロデュースと連動したモードII型知財業務 ●ソフトウェア著作権研究 ●オンラインIT出願体制を活用した特許自己出願・維持管理業務 	<ul style="list-style-type: none"> ●専任教員(1名:中村) ●利益相反マネージャー(1名) ●モードII知財マネージャー(1名) ●特許相談アドバイザー(3名) ●契約法務担当(1名) ●業務補助員(1名)
リエゾン部門	<ul style="list-style-type: none"> ●整備済基盤業務 ●地域産学官連携ボード及び技術交流会を通じた地域交流対応 ●モードII型研究プロデュース ●東アジア地域経済圏拡大 ●安全保障輸出管理 	<ul style="list-style-type: none"> ●専任教員(2名) ●地域連携マネージャー(兼任) ●事業化プロデューサー(兼任2名、3名) ●産学連携アシリエイト(1名) ●モードII産学連携アシリエイト(2名) ●技術交流会スタッフ業務補助員(1名) ●産学官連携コーディネーター(CD支援型)(1名)
教育支援部門	<ul style="list-style-type: none"> ●整備済基盤業務 ●知財DNA教育 ●ベンチャー社員社会人教育 	<ul style="list-style-type: none"> ●兼任教員2名(2名) ●知財DNA教育マネージャー(1名)
ベンチャー支援部門	<ul style="list-style-type: none"> ●整備済基盤業務 ●地域金融機関と連携したファンドの創設 ●関連機関と連携した経営サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ●ベンチャー支援マネージャー1名(兼任) ●兼任教員(1名)
国際部門	●国際産学連携の支援他	<ul style="list-style-type: none"> ●専任職員(1名) ●国際契約法務担当(兼任1名) ●安全保障貿易輸出管理担当(1名)
飯塚分室	●飯塚地区産学官連携の推進	●兼任教員(2名) ●業務補助員(1名)
若松分室	●若松地区産学官連携の推進	●専任教員(3名) ●業務補助員(1名)
東京リエゾン部門	<ul style="list-style-type: none"> ●東京地区産学官連携の推進 ●東京地区でのモードII型研究プロデュース 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業化プロデューサー(1名) ●モードII産学連携アシリエイト(1名) ●業務補助員(1名)

研究協力課

専任職員7名、業務補助員5名

外部資金関係事務及び契約、知的財産関係事務、社会連携事務など



○ 成果事例

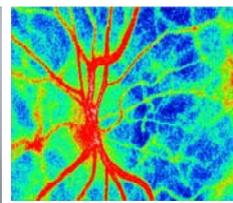
広視野角眼底血流画像化装置を大学発ベンチャーで事業化

大学等名 国立大学法人九州工業大学
 機関名称 産学連携推進センター

要約

本学の教育職員であり研究者である藤居 仁教授は血流画像化技術等に関して長年研究してきた。その研究成果を活用する目的で本研究者の関係者とともに、ベンチャー企業を設立した。ベンチャー企業設立後も本研究者は、本学の教育職員として教育と研究に精励してきた。本研究者の公開された発明は43件である。その中で国立大学法人化後の発明は15件であり、その中で、ライセンス契約した発明は、5件である。その中で、ここに紹介する発明は技術移転後、医療機器製造認可を取得し、昨年度本格的にレンタルを含む販売実績が伸びた、1機種で2000万円を超えた広視野角眼底血流画像化装置である。

医療機器製造認可を取得したLSFG-NAVI機と眼底血流画像例



左側の写真は、医療機器製造認可を取得し、昨年度本格的にレンタルを含む販売実績が1機種で2000万円を超えた広視野角眼底血流画像化装置である。
 右側の写真は、本広視野角眼底血流画像化装置による眼底血流の画像写真である。この画像は、動画として観覧されたものの静止画像である。

創出

産学官連携のきっかけ(マッチング)

本学の教育職員である研究者は長年眼底血流画像化等の研究をしていた。本研究者の成果をもとにベンチャーを設立した。その後、本研究者は、広視野角の眼底血流画像化装置を発明した。本学はこれを当該ベンチャーにライセンスした。

整備

知財管理(特許化、知財保護)※

- 特許取得: 国内 1件、海外 1件 「広視野角眼底血流画像化装置」
- 特許出願: 国内 1件、海外 4件 「広視野角眼底血流画像化装置」

活用

技術移転の概要

成果内容の事例

●ベンチャー支援・育成

本学の教育職員であり研究者である藤居 仁教授は血流画像化技術等に関して長年研究してきた。その血流画像化技術を基に、新しい医療診断装置を開発し、製品化することを目的に、本研究者の関係者とともに、いわゆる大学発ベンチャー企業としてソフトケア有限会社を設立した。本ベンチャー企業設立後も本研究者は、本学の教育職員として教育と研究に精励してきた。本研究者の公開された発明は43件である。その中で国立大学法人化後の発明は15件であり、その中で、ライセンス契約した発明は、5件である。本ベンチャー企業には、2件(発明は3件)を技術移転している。

この血流画像化技術は、生体によるレーザー散乱光(スペックル)の画像解析をベースに構築され、世界に類を見ない新しい血流画像を動画で提供することができるもので、今日まで皮膚用と眼科用の血流画像化システム(レーザースペックルフローグラフィ、以下LSFG)を製品化し、国内の医療・研究機関で利用されつつある。特に眼科用LSFGは過去10余年にわたり、藤居研究室とソフトケア(有)が共同でハード、ソフトの改良を続けてきた経緯がある。

広視野角眼底血流画像化装置は、藤居研究室で発明されたもので、九州工業大学がソフトケア(有)に独占的通常実施権を許諾したものの1件である。技術移転後、小數精鋭で頑張っているソフトケア(有)の努力の賜物として、医療機器製造認可を取得し、昨年度本格的にレンタルを含む販売実績が伸びて、1機種で2000万円を超えた。

連携機関

○ ソフトケア有限会社 氏名 岡本 兼臣